

## 消防団長紹介



忠岡町消防団 団長 國本 都央

忠岡町は、大阪府の西南部、大阪湾に面する臨海平野部に位置し、北東は大津川と牛滝川を境に泉大津市と一部和泉市に、南面は岸和田市に隣接しています。面積は3.97平方kmと全国で一番面積の小さな町です。明治22年4月1日の町村制施行により、忠岡村、高月村、北出村、馬瀬村が合併して忠岡村となり、昭和14年10月1日町制施行し現在に至っています。明治22年以降100年有余にわたって、町域に変更がなく現在に至っているのは極めて珍しい本町の特徴の一つです。産業は古くから毛布、セーター、ニット製品の製造・加工しており、昭和40年代からは臨海部木材コンビナートが造成され木材加工業も盛んとなっております。

忠岡町消防団は大正5年4月忠岡村消防組として結成、その後、昭和22年8月消防団令に基づき「忠岡町消防団」と改称しました。平成31年4月現在、消防団長以下2分団4班33名の団員で構成され、ポンプ車2台、積載車1台、小型動力ポンプ積載軽自動車1台、指揮広報車1台を保有し、毎月定例訓練を実施するとともに、防災訓練、出初式等にも参加しています。

私は、昭和47年2月に入団以来、班長、部長を経て、平成10年5月より副団長として活動したのち、平成29年4月に団長に任命されました。

大阪府消防操法訓練大会においては、指揮者として2度出場し、日夜団員とともに汗にまみれながら訓練を重ねた結果、昭和62年には優勝、平成5年には準優勝を果たしました。

私が入団して数年後、2階建長屋住宅の炎上火災現場において、家人から『家の中にまだ子ども達が残っています。』という情報がある中、筒先隊員として子ども達の無事を祈り、放水活動を懸命に行いました。鎮火後に家中を隈なく検索したところ、2階居室押し入れの中に幼い子ども3名が重なり合って焼死体として発見した時の事は、今でも鮮明に記憶しており、助けることができなかったという悔しさと自分達の無力さを感じた現場であるとともに、以後の消防団活動により一層尽力しようと決意した出来事でした。

団長として活動する時は、規律厳正にして責任感をもって諸事にあたるよう心がけ、適切なる判断のもと部下団員を掌握し、育成指導に邁進しております。

地域住民に密着した消防団として、防災に強い安全な街づくりの実現を目指しています。消防団は、今後発生が危惧される地震や風水害等の大規模災害に対し、地域防災の中核としてその活動を期待されています。忠岡町を愛する一人ひとりの力が合わされば、地域の防災はさらに確かなものになります。これからも私たちは、忠岡町消防団として「自分たちの町」を「自分たちの手」で守ります。